

いちのへ SDGs mirai カフェ 報告書

～未来ワークショップで一戸町を考えよう～



開催日時：

第1回：2024年9月28日（土）10時00分～12時00分

第2回：2024年9月28日（土）13時30分～16時30分

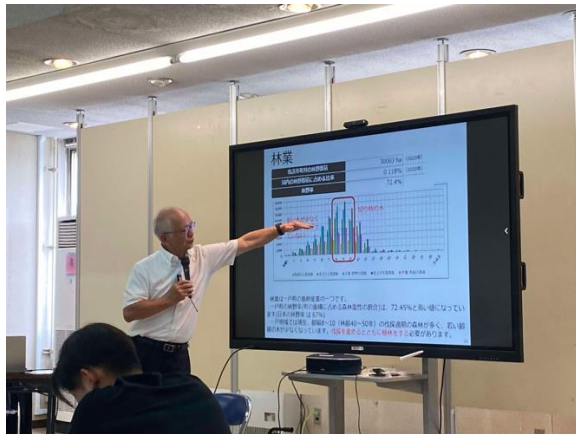
会場：一戸町役場3階 大会議室

主催：一戸町

町への期待や想い、一戸の未来について気軽に意見交換し、どんな町に暮らしたいか、やりたいことは何かを話し合うタウンミーティング「いちのへ SDGs mirai カフェ」。

令和6年度は、9名の方に参加いただき、一戸町の暮らしのデータ「いちのへ未来カルテ」を活用し、SDGsの視点からデータを見て課題を見つけ、町長の気持ちになって政策アイデアを考えてみる、「未来ワークショップ」を開催しました。

第 1 回 一戸町の未来を知る～2050 年の未来予想図



午前の部では、岩手県立大学・渋谷名誉教授の解説を聞き、「未来カルテ 2050」にしたがって、何も政策を行わない場合の一戸町の 2050 年の姿を見てきました。

- ・2020 年の一戸町の人口は 11,480 人。このままだと 2050 年の一戸町の人口は、2015 年の 41.5%、4,765 人になる見込み。自然減、社会減の両方が起きています。一戸町は「消滅可能性自治体」なのです。
- ・高齢化がさらに進み、2050 年には町民の 56% が 65 歳以上になる見込みです。
- ・産業を支える就業者人口は 2020 年の 5,741 人から、2050 年には 2,062 人まで減少する見込みです。
- ・人口減少に伴い、病気の人や介護保険受給者は減少しますが、もともと岩手県の医者数は不足している状況です。
- ・幼稚園、小中学校の在籍者は減少しますが、先生一人あたりが担当する子供の数が少なくなり、手厚い教育が行われる可能性があります。
- ・公共施設（インフラ）は人口が最も多い時に合わせて整備されました。人口が半分になっても維持管理費は増え続け、町民の大きな負担になります。
- ・2030 年以降、人口減少に伴い空き家が増え続けます。
- ・ごみの量は減りますが、ごみを集める人は減少し、ごみを処理する費用は増えることが予想されます。
- ・人口減少や産業の衰退が進むと、税金が集まらなくなり、町の収入が減少します。
- ・一戸町の再生可能エネルギー自給率は 215%。町中で使うエネルギーの 2 倍を作り出しています。そのポテンシャルを活かしてエネルギーの地産地消に取り組んでいます。（ゼロカーボンシティ宣言、一戸町応援団結成プロジェクトなど）
- ・地球温暖化による健康、農業、生態系への影響も予想されています。

ここで大事なことは、未来カルテ 2050 は、「何も政策を行わない場合・いまの傾向が変わらない」ことを前提にしたデータであることです。「新しい政策」を行えば、いまの傾向を変えることができます。

第2回 いちのへ脱炭素・未来ワークショップ

午後の部では「いちのへ脱炭素・未来ワークショップ」を行いました。

バックカスティング（今までのことはひとまず置いて、ゼロから考える、ゴール・目標から考える）で、未来カルテ2050に基づき、2050年の町長になったつもりで未来の課題を考察し、今（2024年）の町長にやってほしかったこと（政策）を提案します。

「2050年の未来町長が対応しなければならない課題」の書き出し

未来カルテ2050をもとに、2050年の未来町長が直面するであろう課題を付箋に書き出します。書き出した後は班ごとに模造紙に課題をまとめ、テーマごとにグルーピングしました。

政策提案

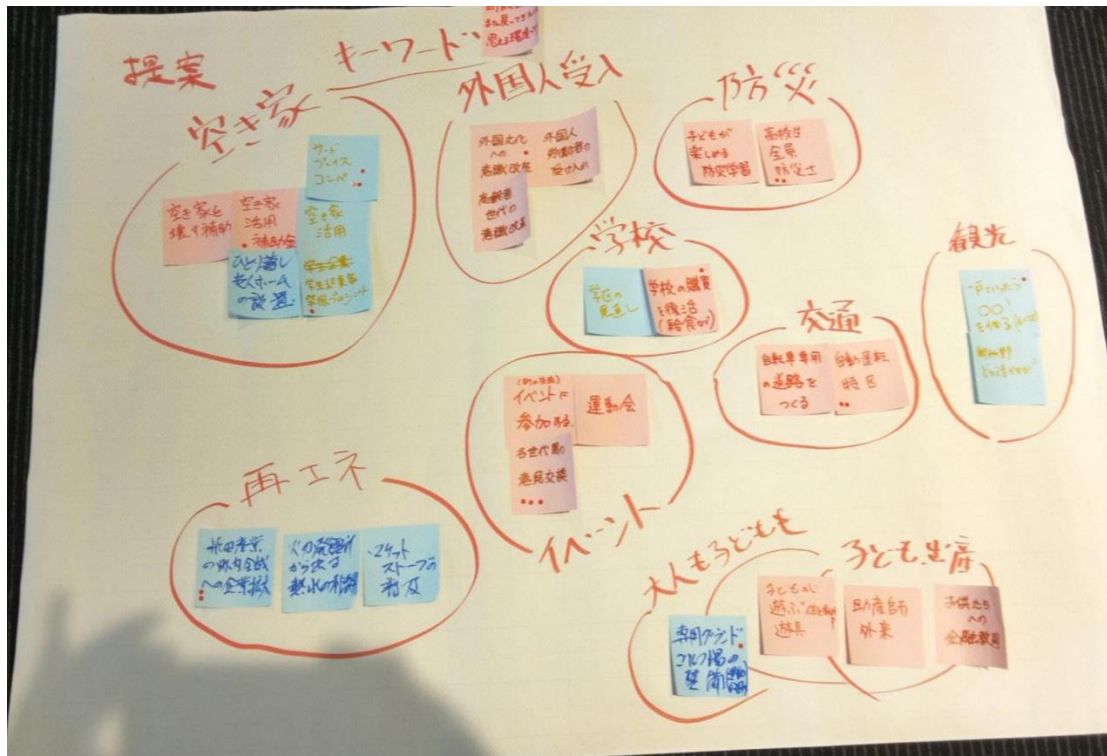
次は2050年の未来町長になりきって、2024年の今の町長にやってもらいたかった政策の提案を付箋に書き出します。書き出した後は班ごとに模造紙に貼り出し、テーマごとにグルーピングしました。話し合っている間に新しいアイデアが出てきます。そちらも付箋に書いてどんどん貼っていきました。

いいねシールの時間

他の班を回覧し、これは素晴らしい！と思った提案に「いいねシール」を貼って人気投票をしました。

1 班	
--------	--

提案



2 班

課題



[illegible]

ここからは小野寺美登町長、上野光久教育長、西舘輝彦政策企画部長が参加し、各班のリーダーから、班のいちおし提言といいねシールが一番多かった提言、その他の提案を発表いただきました。

- 6 -



次に、小野寺美登町長、上野光久教育長、西舘輝彦政策企画部長よりコメントをいただきました。

小野寺美登町長

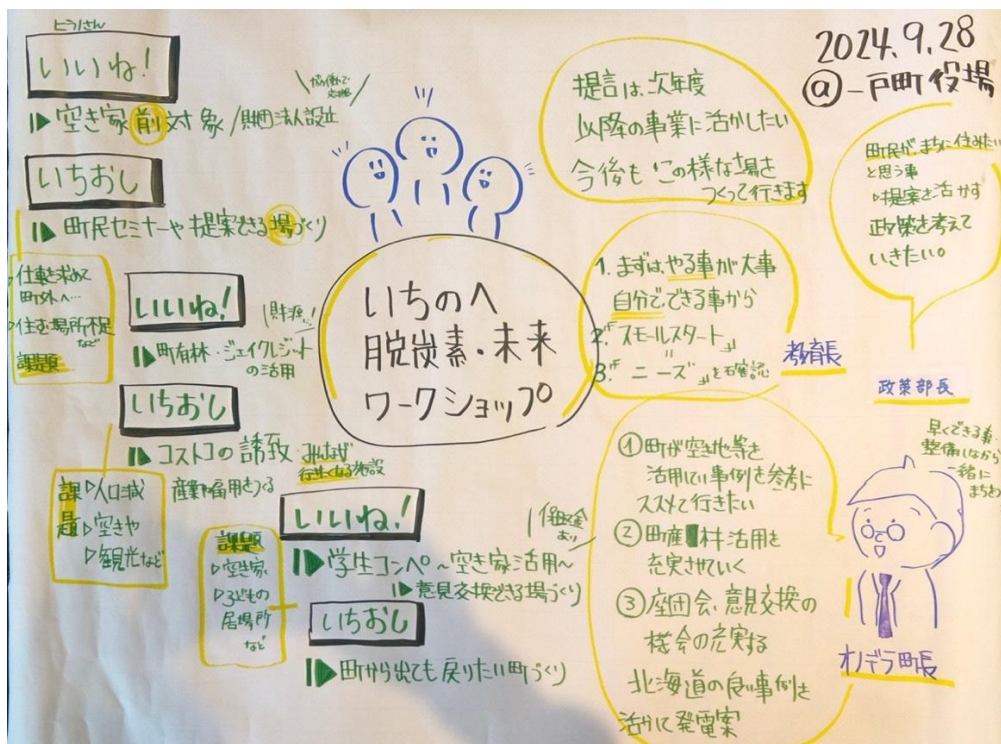
- ・町が空き地等を活用している事例を参考に（一戸町でも）進めていきたい。
- ・町産材活用を充実させていく
- ・座談会や意見交換の機会を充実させる。

上野光久教育長

- ・まずはやる事が大事。自分でできることから。ポイントは「スモールスタート」。
- ・「ニーズ」を確認したい。

西舘輝彦政策企画部長

- ・町民が町に住みたい、と思うことが大事。
- ・提案を活かす政策を考えていきたい。



・みなさんの感想

参加した感想

- ・町としても、町民としても、良くしていくための良い機会となりました。
- ・現状と課題がわかりやすく認識できた。
- ・自分では気づかない意見が多く参考になった。
- ・一戸町の現状を理解できました。
- ・たくさんの方々の考えを知る事ができました。
- ・分かりやすくまとまっていて、かつ、将来に対する課題が良く理解できました。
- ・想像していた以上に楽しかった。普段知り合いと話しているような感じで、かつ、様々な世代の意見を聞くことができて貴重な体験となりました。
- ・今の現状、2050年までに何もなかったら町がどうになってしまうかなど、自分自身たくさん学べることがある良い機会になりました。
- ・自分より年齢の高い大人の方とグループワークを行うことで、自分にはない別の視点からの意見を聞くことができたし、世代間での意見交換ができたので良かったです。
- ・一戸町の未来を考える貴重な機会になった。データがあるため、分かりやすく未来の問題を考えやすかった。
- ・学生にとって、多くの人と話し合える良い時間だった。

今後どのような研修会を希望しますか？

- ・なんとかより多くの町民に参加してもらえるように、曜日や時間を変えたり、何回かやってほしい。
- ・観光イベント企画会議。
- ・地域課題について考える研修。
- ・SDGsの取り組みを実際に行なっている方や企業の話聞く。
- ・午後のワークショップをもっとたくさんの方と共有したい。世代間の意見交換と、ニーズの確認ができると思う。
- ・上野教育長のお話が、今後の一戸活性化のきっかけになると感じました。もっと詳しくお話を聞きたいです。
- ・地域課題について詳しく聞きたいです。